

令和7年度福島県高次脳機能障がい支援研修会
於：総合南東北病院

福島障害者職業センターにおける 高次脳機能障がいのある方の就労支援



独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 福島支部
福島障害者職業センター
上席障害者職業カウンセラー 笹川 智子

本日の内容

1. 福島障害者職業センターの支援サービス
2. 高次脳機能障害者に対する就労支援（事例含む）
3. 医療機関と就労支援機関との連携について

(独)高齡・障害・求職者雇用支援機構の障害者雇用支援

障害者職業総合センター (千葉県千葉市)



- ・機構業務の中で障害者部門を統括
- ・職業リハビリテーションサービスに関する研究 (研究部門)
- ・職業リハビリテーション支援技法の開発・改良及び普及の取組み (職業センター)
- ・就労支援機関職員向けの専門研修の実施、専門図書室

地域障害者職業センター (全国47か所+支所5ヶ所)

- ・各都道府県庁所在地に展開 (北海道・東京・愛知・大阪・福岡は支所あり)
- ・障害のある方、雇用事業主、就労支援機関への各種支援を提供



福島障害者職業センター
(ポリテクセンター福島内)

国立職業リハビリテーションセンター (埼玉県所沢市)

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター (岡山県加賀郡)

- ・障害のある方の職業適性等を理解・把握するための職業評価
- ・就職に必要な技能・知識等を習得のための職業訓練
- ・就職活動に必要な情報提供や指導



福島障害者職業センターの支援サービス

障害者※への支援

※対象となる方：身体障害、知的障害、精神障害（うつ病、統合失調症、その他精神疾患）発達障害、高次脳機能障害、難病の**診断がある方**。

◇職業相談・職業評価◇

（再）就職を目指す方、障害特性に合わせた職業や雇用条件検討を希望する方に対して、職業適性検査、各種作業、職歴などをふまえ、職業上の得手不得手、課題などを整理する。



郵便仕分け作業課題

◇職業準備支援◇

職業準備支援室に通所し、障害特性の整理や就職活動の準備をするプログラム。※利用期間12週間

障害者と事業主（企業）双方への支援

◇ジョブコーチ支援◇

就職先企業に担当ジョブコーチが定期的に訪問し、障害のある方には「職場適応に向けた助言・援助」を、企業には「雇用管理に関する各種講座、グループワーク、作業課題、復職面談準備助言」を行う。

※標準支援期間3ヶ月間＋フォローアップ期間12ヶ月間

◇リワーク支援◇

企業・主治医の利用同意が必要

うつ病等で休職している方に対して、各種講座、グループワーク、作業課題の提供や復職面談準備の助言を、**復職先企業の人事・産業保健スタッフ**に対して、復職後の雇用管理の助言を行う。

※コーディネート期間＋標準支援期間3ヶ月間



リワーク講座：アサーション

事業主（企業）への支援

※対象となる事業主：**雇用保険者**である事業（企業）

◇個別事業主支援◇

- ・障害者雇用の進め方に関する情報提供、在職障害者の雇用管理に関する相談など
- ・従業員に対する社員研修（例：〇〇障害の方と一緒に働くために必要なこと）

◇体系的事業主支援◇

複数人の雇用計画に際して、障害者雇用の進め方や支援機関の利用方法の情報提供、カウンセラーの職場訪問による職務内容の選定、社員研修、採用後のフォローアップまでを計画的に支援する。

就労支援機関への支援 （助言・援助業務）

◇基礎研修フォローアップ研修（集合型）◇

就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所などの福祉機関、教育機関、医療機関の支援者が、必要な知識や技術の習得を目指すための研修。

◇個別の助言・研修◇

- ・受講者の要望にあわせた研修を毎年企画し開催。
- ・ジョブコーチ支援などでの個別ケースの支援連携による助言（協同支援）。

◇職場適応援助者養成研修（実技研修）◇

職場適応援助者（ジョブコーチ）資格取得のための指定研修。

職業相談、職業評価



- ・長く続けられる仕事や環境はどのようなもの？
- ・就労する上で、自分の得意・不得意を整理したいなど

就職し、安定した職業生活を送るために、
現時点の自分自身を知ることから始める

- 面談による職歴や加療歴などの確認、各種検査によるメンタル面、思考特徴などの整理
- 各種作業検査による、指示理解力、作業遂行力などの整理
- 就職時に職場への配慮依頼が必要な事項について整理（※ただし合理的配慮の範囲をふまえて）
- 「強み」を見つけて、就職の可能性をできる限り模索する

【職業リハビリテーション計画】

就職・就業継続・復職を実現するための具体的な目標を提示

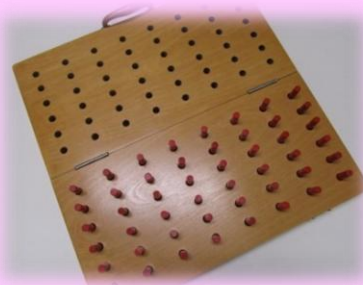
職業評価実施内容例

面接・相談
チェックリスト
ワークシート

各種検査



身体を使う作業



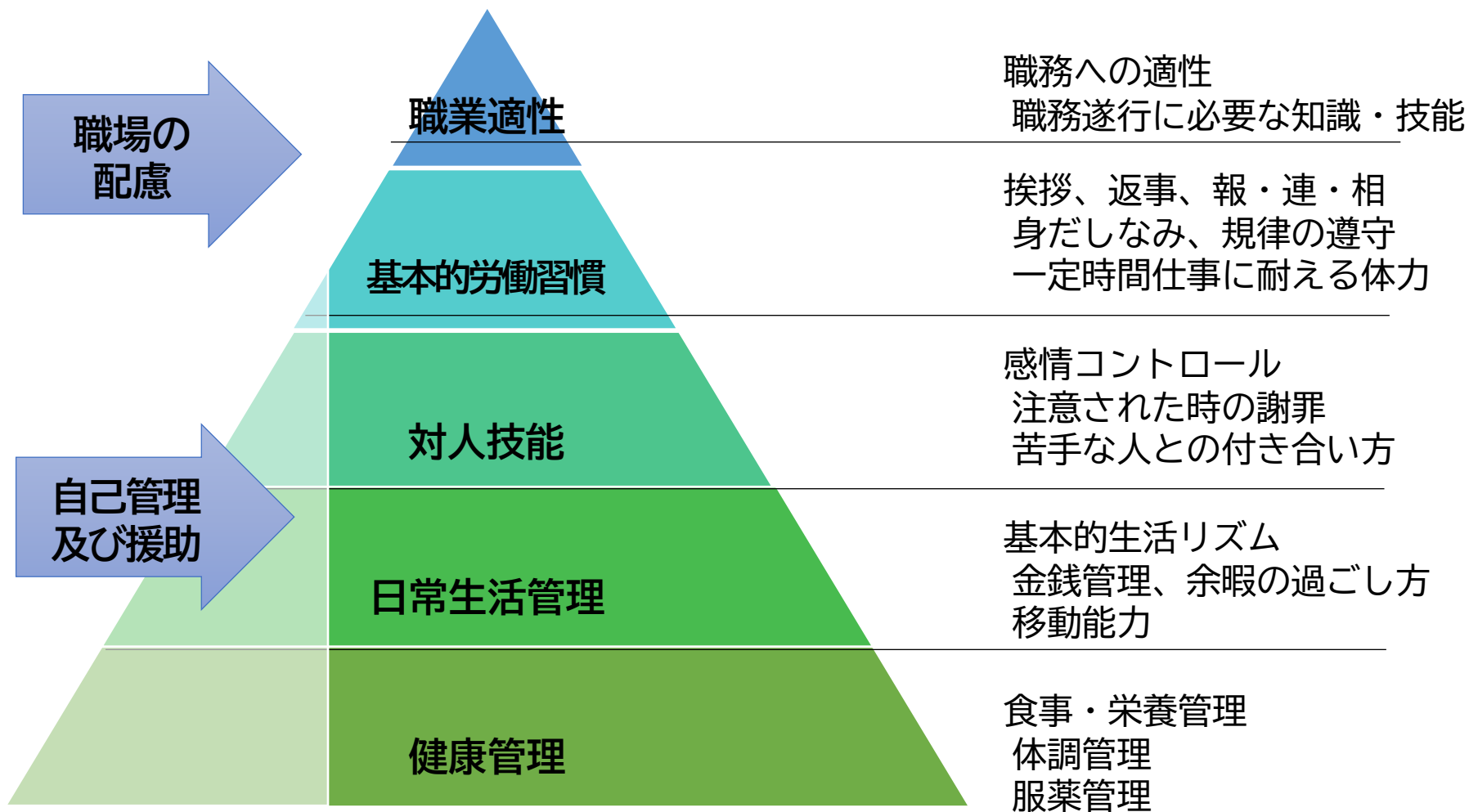
事務作業



PC作業



安定した職業生活に必要なアセスメントの視点 (職業準備性ピラミッド)



職業準備支援



- ・長く働くために就労リズムを確立したい
- ・自分に合った仕事や職場を見つけない
- ・仕事を正確にできる方法を習得したい
- ・ストレス・疲労をコントロールしながら働きたい
- ・職場でのコミュニケーションのコツを掴みたい

- 職業センターに通所し、プログラムの受講を通じて、**障害特性や職業上の得意・不得意について、体験を伴った自己理解**ができることを目指す
- 取り組む作業内容、時間、講座は、職業評価結果をふまえ、個別に設定
- さまざまな障害を持つ方が利用している

職業準備支援のスケジュール（例）

	月	火	水	木	金
10:00～	体操 ・ ミーティング（体調・予定の確認）				
10:15～ 12:00	作業	問題解決技法 手順書作成	共同作業	JST （職場対人技能 訓練）	作業
13:00～ 15:00	作業	作業	認知療法 ／作業	アサーショ ン	リラクゼーション ／ナビブック 作成
15:00～	片付け 1日の振り返り				



JST（職場対人技能訓練）



作業（事務課題）



個別の振り返り



ナビゲーションブック

〇〇 〇〇 平成 年 月 日

セールスポイント

- 作業内容が理解できれば、効率的、計画的に仕事を進めることができます。

仕事について

- 先の見通しが持てる予定を示されると安心して取り組みます。
- 口頭の指示だけでなく、マニュアルやメモなど視覚的に確認できる物があると安心して作業に取り組みます。

コミュニケーションについて

- 物事を率直に言ってしまう傾向があります。悪気はありませんが、嫌な思いをされている場合は、知らせていただくとう助かります。
- 言われたことは理解できますが、質問された場合は、正確に答えようとして言葉を選び、答えるまでに時間がかかることがあります。
- 言葉を字義どおりに受け止めてしまいますので、冗談が分からないことがあります。

その他(体調・疲労面)

...

●支援期間：最長12週間

●目標や課題に合わせて、個別にカリキュラムを設定

職業準備支援の講座（例）

職業に関する知識の習得に係る支援

- ・履歴書の書き方
- ・面接の受け方
- ・面接練習
- ・職場のルールとマナー
- ・ジョブコーチ講座
- ・特性理解
- ・オープン／クローズ など

社会生活技能等の向上に係る支援

- ・ストレス対処
- ・日常生活基礎力
- ・対人技能(JST)
- ・問題解決技法トレーニング
- ・手順書作成
- ・アサーショントレーニング
- ・認知行動療法
- ・アンダーコントロール など

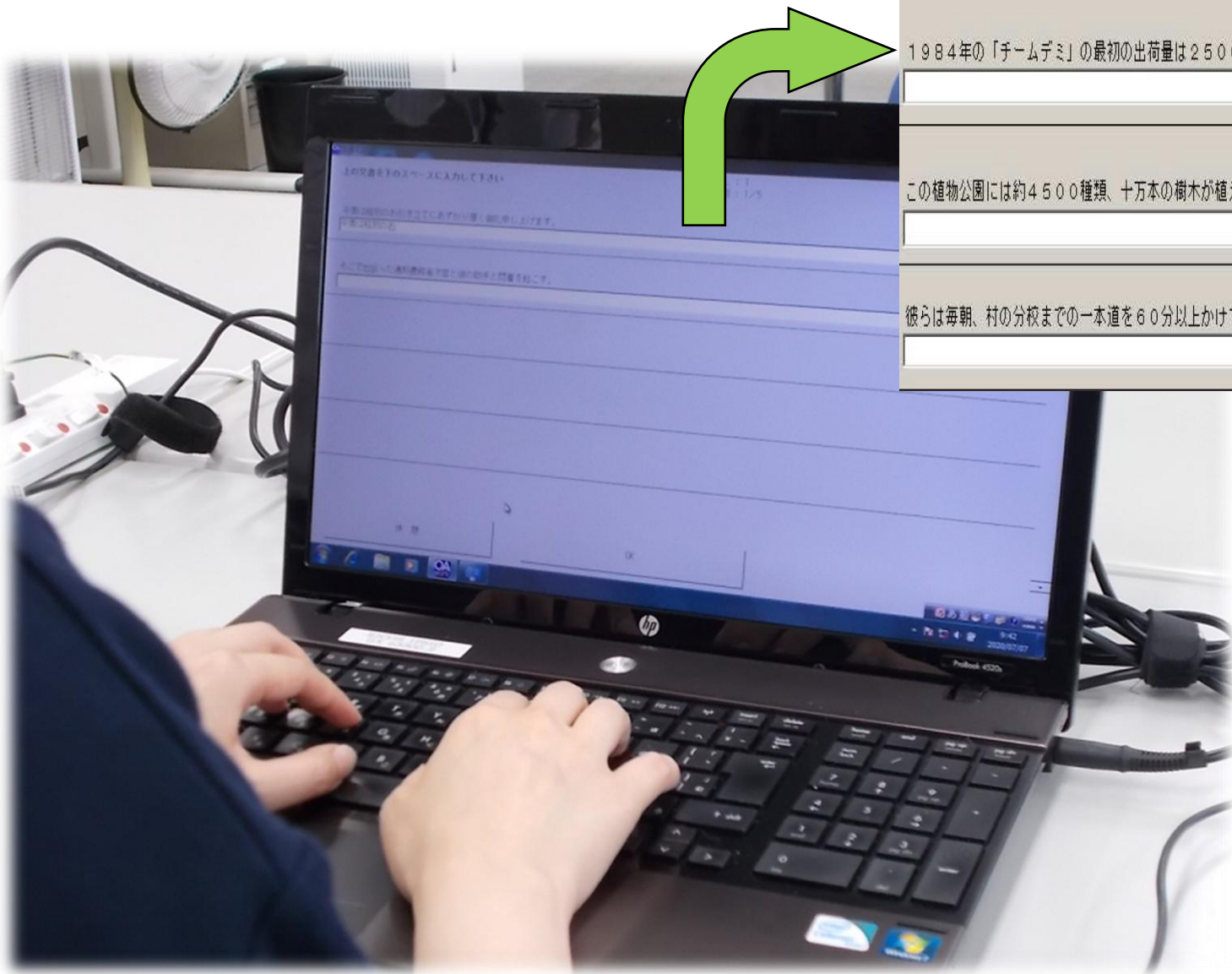
職業準備支援 作業支援

MWS（幕張ワークサンプル）を活用

- データによる判断と具体的なフィードバックを実現
- 作業難易度を段階的に設定
- 対象者に応じ作業負荷を設定



パソコン入力作業



文書入力

上の文書を下のスペースに入力して下さい

LEVEL : 2
ブロック数 : 1/1

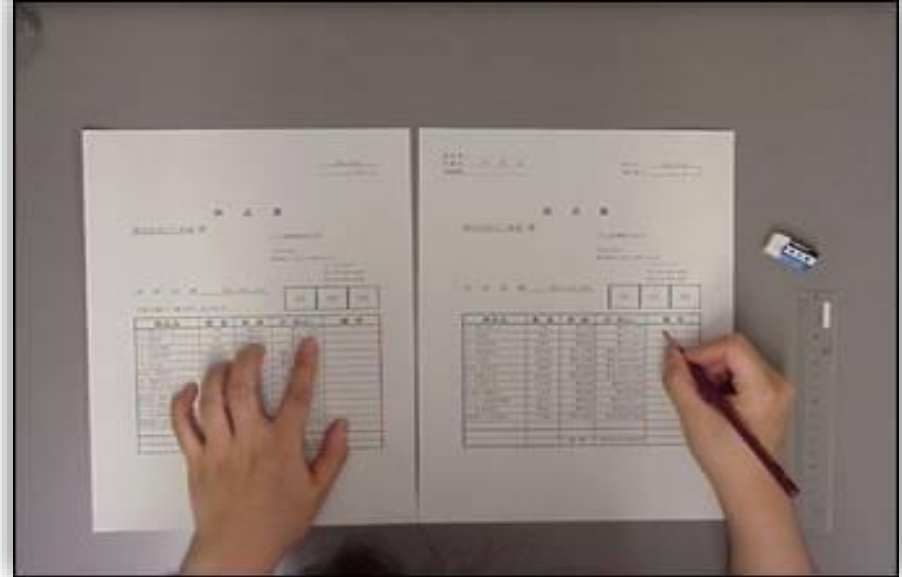
開始時間 : 15:03:23
経過時間 : 0分 4秒

1984年の「チームデミ」の最初の出荷量は25000個であった。

この植物公園には約4500種類、十万本の樹木が植えられている。

彼らは毎朝、村の分校までの一本道を60分以上かけて歩いている。

事務作業



ピッキング作業



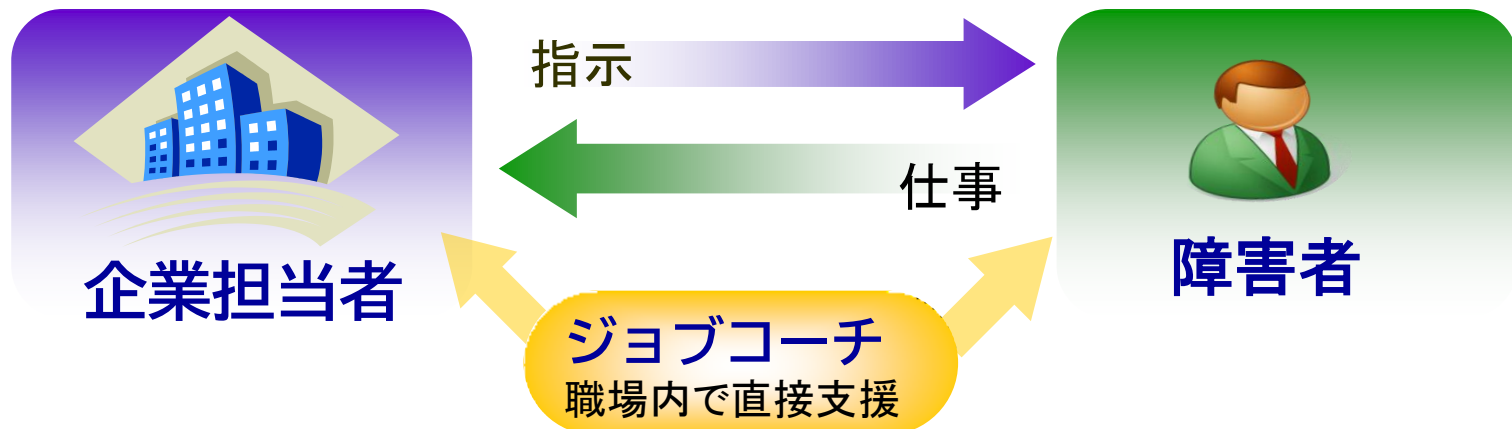
ジョブコーチ支援



- ・仕事が覚えられるか心配
- ・困ったときには誰に相談したらいいのだろう
- ・職場の人は自分のことをどのように思っているのかな…



- ・どんな接し方や指導方法がよいのだろうか
- ・どんな業務担当してもらえばよいか
- ・現場スタッフ不安がつよい…



● 3か月程度の支援期間のあと、フォローアップ期間を設定し、支援効果効果を維持

● 必要に応じて、就業・生活支援センターなどの就労支援機関と役割分担

ジョブコーチ支援のイメージ

企業担当者



障害者



適応
直接的関係



一時的な
橋渡し

—安心—

- ・〇〇障害とはこのような特性があります
- ・△△が苦手ですが、環境設定をこうすれば対応できる可能性があります
- ・こういう業務が比較的適しています
- ・～という言い方の方が、意図が伝わりやすいです

—安心—

- ・手順書を確認しながら作業をしよう
- ・作業内容を確認できるツールを整備しよう※企業の実情による
- ・疲れをモニタリングして、集中できる作業・疲れが出る時間帯などを職場と共有しよう
- ・〇〇について、早めに上司に相談してみよう



ジョブコーチ

高次脳機能障害者に対する就労支援

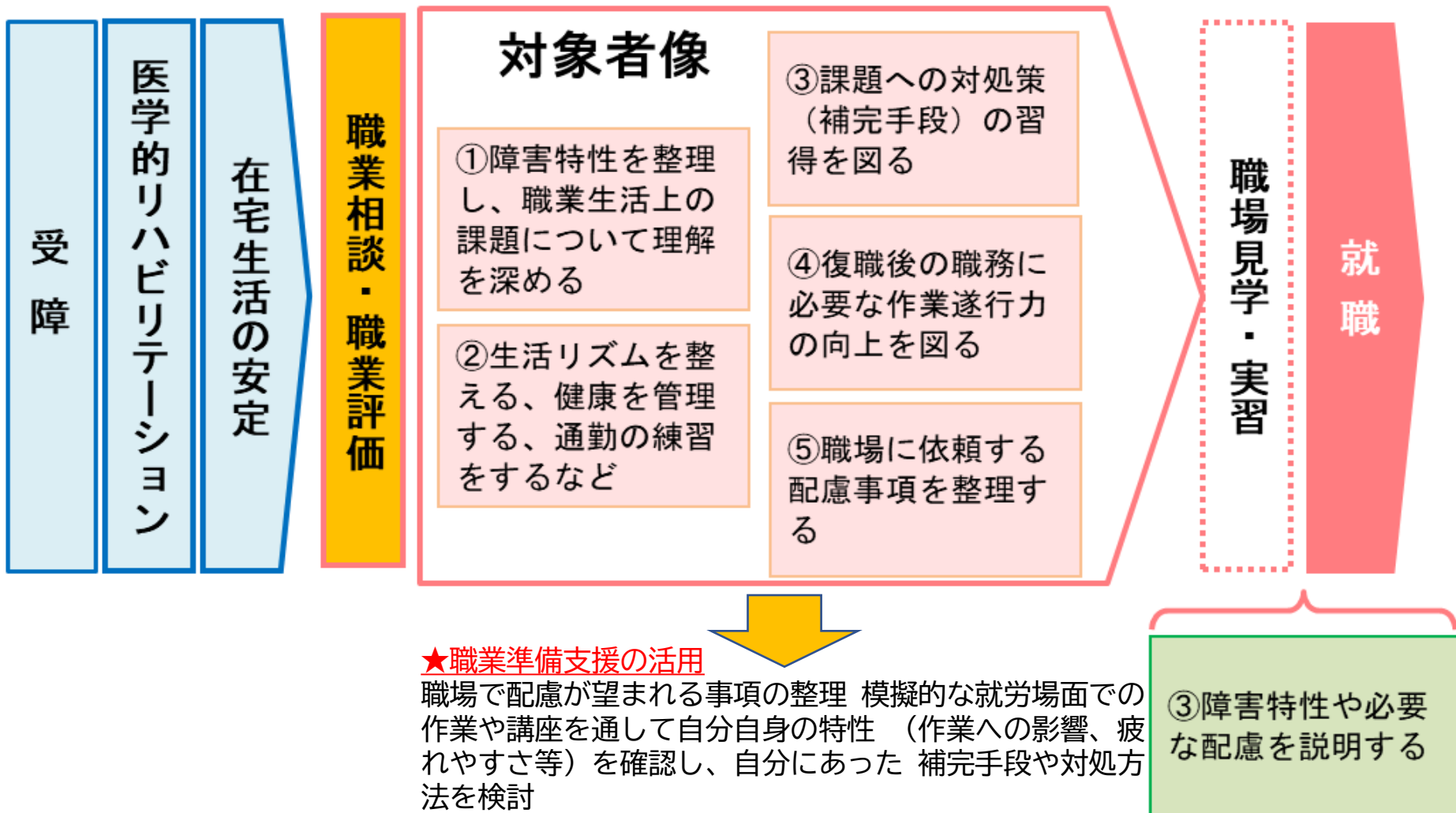
高次脳機能障害の就労支援：申し込み時の希望例（ご本人・家族）

- リハビリが落ち着いてきたので、**今後の就職に向けて、自分にできること**や得意不得意の整理をしたい（介護サービス利用・未就職）
- 復職に向けて**障害の影響がどの程度現れるか**確認したい（休職中・復職希望）
- 復職の際、**職場への障害の伝え方**の内容や程度が分からないのでアドバイスが欲しい。**会社との仲介をしてほしい**。復帰後の支援も受けたい（休職中・復職希望）
- 受障後に職場復帰したが、**業務対応が難しいので転職**を考えたい（在職中・転職検討）
- まだ仕事ができる気はしないが、主治医が相談してきてと言うので相談や**職業評価**を受けたい（介護サービス利用・未就職）

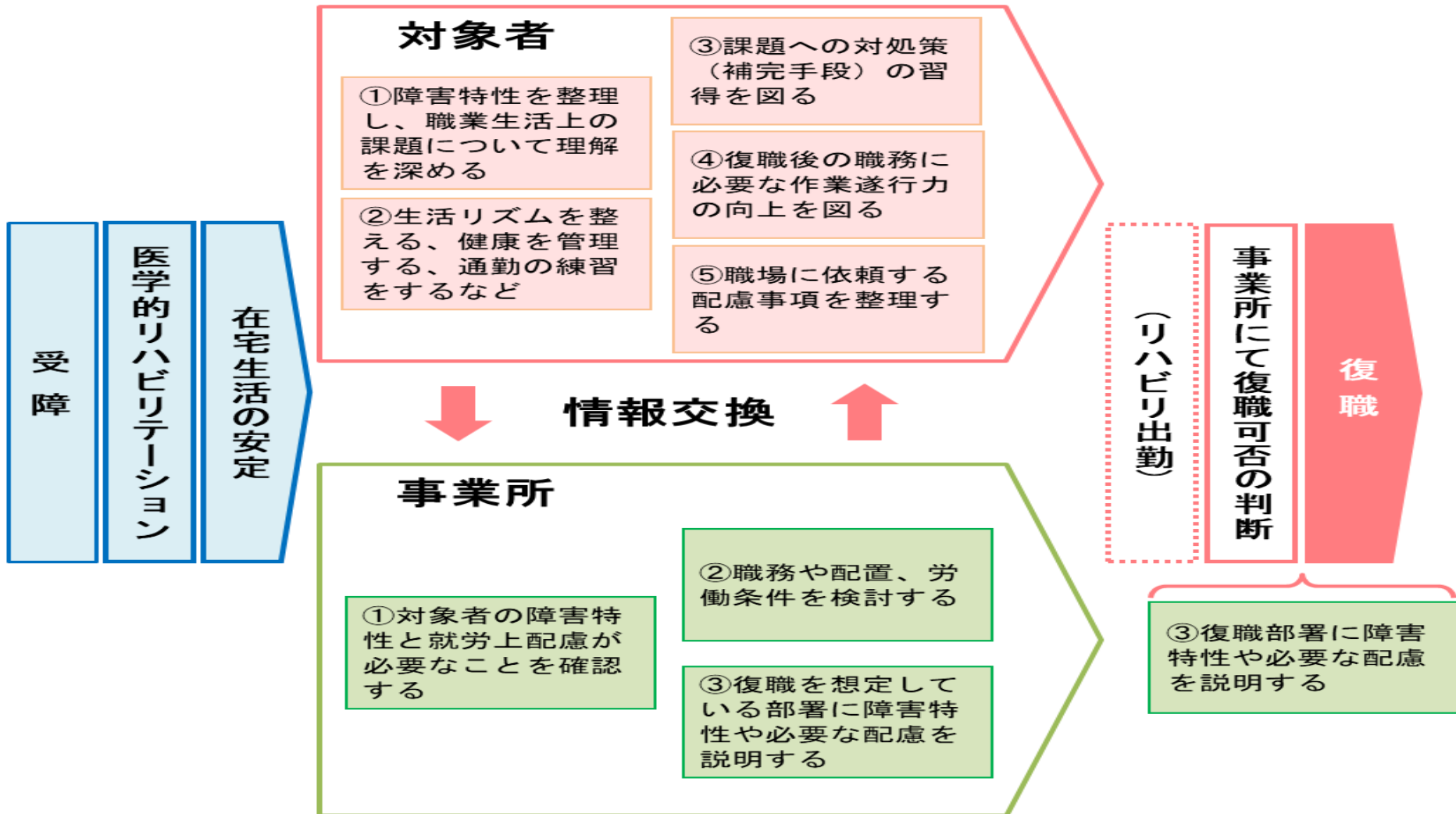
高次脳機能障害の就労支援：申し込み時の希望例（医療機関）

- ご本人が一般企業就労を希望しているが、**医療機関では就労上どの程度できるのか十分把握できない**ので、職業評価で確認したい
- 家族が復職の相談を会社に行っている。復職にあたって、会社が求める職務能力の目安や復職ステップが不透明のため、**ご本人の状況整理と事業主との調整**を依頼したい

障害者職業センターのコーディネートの流れ（再就職）



障害者職業センターのコーディネートの流れ（復職）



事例（在職者の職場定着）

※内容加工しています

※スライド投影のみ

事例（在職者 脳梗塞） - 1

40代男性 Aさん

動脈乖離脳梗塞による高次脳機能障害（記憶障害）

手帳なし 単身生活

WAIS-IV 全IQ92

言語理解96 知覚推理58 ワーキングメモリ85 処理速度87

22歳 就職（※現在の勤務先。営業職）

40歳 職場にて倒れ、救急搬送。高次脳機能障害診断

41歳 退院し、外来リハに移行

42歳 別疾患が見つかり、外来リハの通院を一旦中止

復職 ※障害は上司以外には非開示

43歳10月 担当案件の増加に伴い、顧客とのやり取りを忘れる
トラブル頻発 →上司「このままではいけない」
「本人ができる仕事内容を知りたい」



43歳12月 上司が本人に再受診を勧め、Aさんが通院再開
WAIS-IV、WMS-R実施

事例（在職者 脳梗塞） - 2

- 44歳5月 事業所内異動（営業→内勤：検査業務＋資格試験勉強）
- 44歳7月 拠点病院高次脳支援連携室からの依頼で、職業評価
※【WAIS-IV】【WMS-R】結果の事前提供
- 44歳8月 職業評価の結果をAさん、病院、上司と共有



脳疲労、短期記憶、集中力などのアセスメントのため、週1～2回
職業センターに通い【職業準備支援】利用を提案



- 44歳9月～10月 毎週金曜日に職業準備支援に参加
※月・火・木・土・日曜日は出勤
事務課題、PCデータ修正、ピッキング等に取り組む

事例（在職者 脳梗塞）－ 3

44歳10月 職業準備支援・職場の状況をAさん、上司、職業センターで共有

- ✓ 1週間ぶりでも、個別の作業手順は覚えている
- ✓ 作業前後の準備、記録表の記入は記憶保持が困難
- ✓ 最初の1～2回はミスが多いが、3回目以降は減る
- ✓ 1週間前のスタッフとのやり取りの記憶がない時がある
(事実の共有が困難)
- ✓ 職場では、業務日誌の記載内容抜けがあり、追加指示をする
が情報追加が不十分
- ✓ 前日指示した仕事を翌日覚えていないことがある



ジョブコーチ支援（相談型支援）を提案するが、利用希望保留

事例（在職者 脳梗塞） - 4

44歳12月 上司から「ジョブコーチ支援をAさん、事業所とも希望」する連絡

「体調不良による休みや『業務日報』内容の不十分さは、障害によるものか、やる気のなさによるものかわからない」

「上司が現場に行って確認ができない中で『業務日報』を読んでも、実際の仕事内容や結果が見えない」



44歳1月～45歳4月 ジョブコーチ支援（面談型支援）実施

✓『業務日報』に【体調】【予定・実施結果・確認事項】の欄を追加提案。Aさんの記入内容を基に、ジョブコーチ・上司との面談を行い、脳疲労の程度、日報で必要な情報を助言

✓「手書きでは言葉が出てこない」ためPC入力に移行し負担減

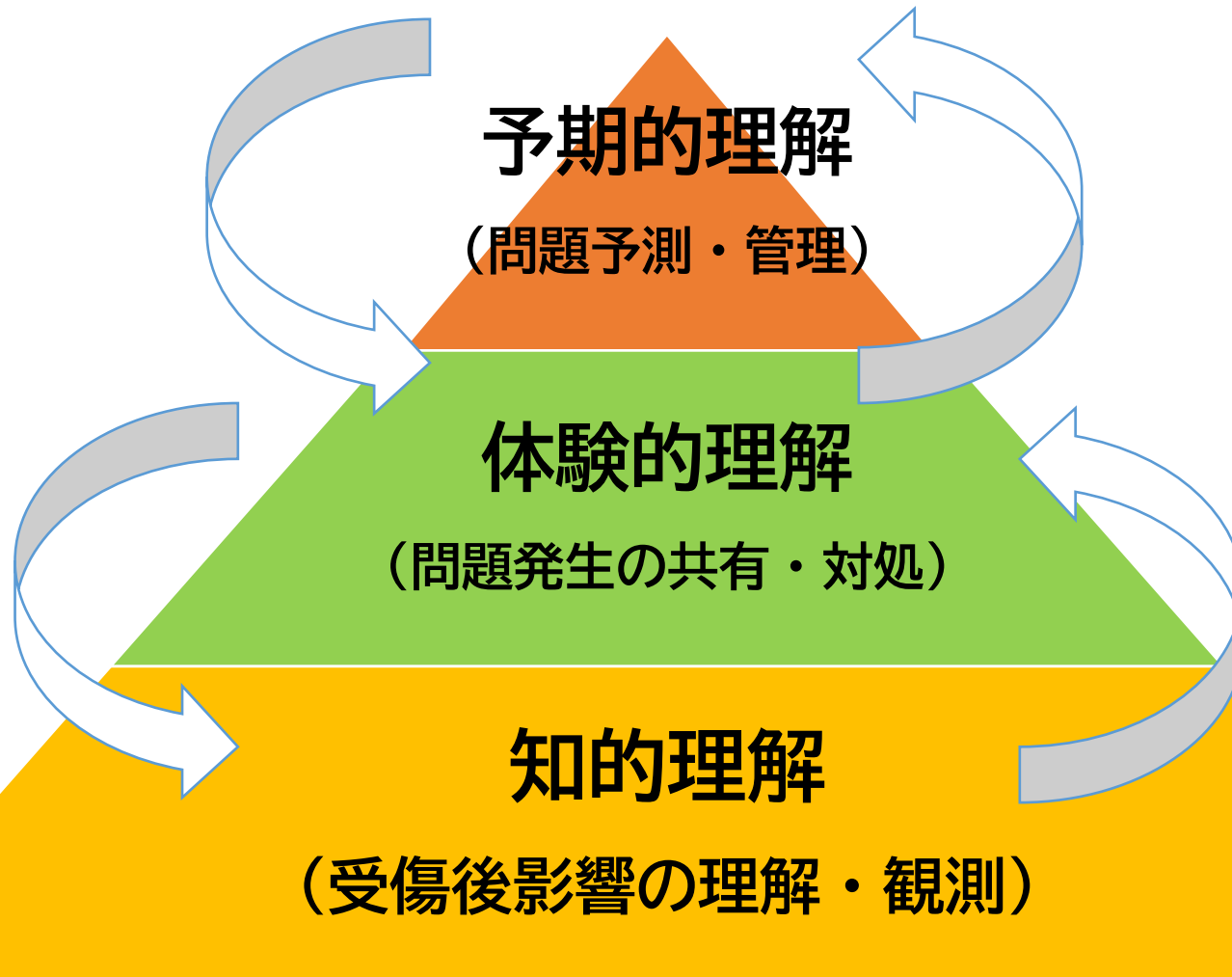
45歳5月～46歳4月 ジョブコーチ支援フォローアップ

・月1回の面談を継続し、上司・Aさんから状況確認

・新入社員教育担当となり、受障前の知識を活用。自身の記憶確認効果も確認される

医療機関と就労支援機関との 連携について

高次脳機能障害者の「障害理解・気づき」



Crosson et al. (1989)のピラミッド型モデル

医療段階と福祉～就労段階とのギャップ

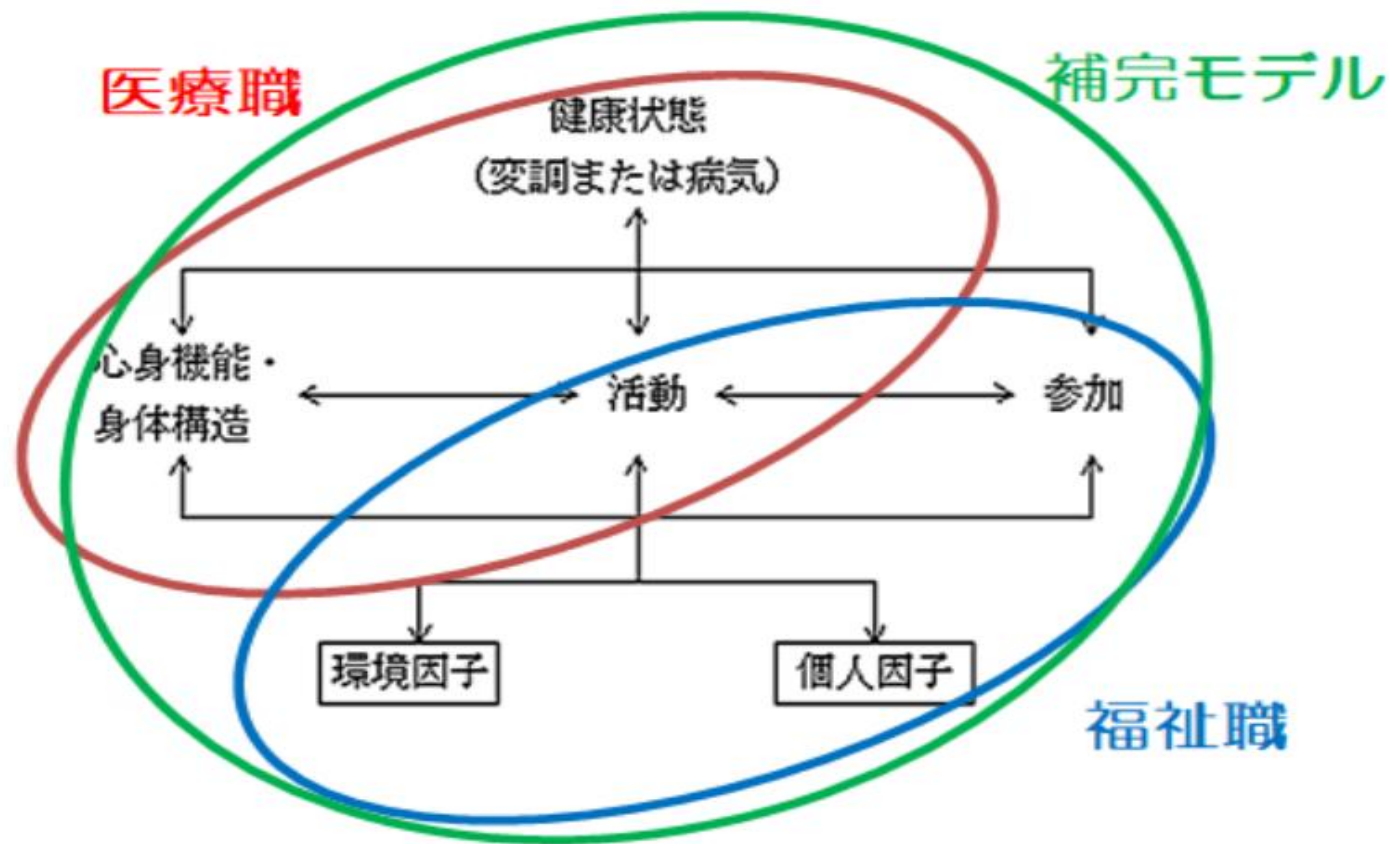
- 刺激や情報が膨大で、情報処理が追いつかない
- とても**疲れる**（通勤、職務、対人…）
- 言いたいことが言えない。断片的。**伝わらない**
- 始めは「**どこも悪いように見えないね**」と言われる
- 次第に「**なんでできないの**」と言われるようになる（障害者雇用であっても）
- 病院の人には“高次脳機能障害はない”と言われたのに…



就労時の不適応・失敗体験を通じて、ようやく障害への気づき

思考、感情の混乱、落胆、抑うつ／**自身への対応方法がわからない**
／職場状況の修復がすでに困難／困っているのに**相談しない** など

職種によるアセスメントの傾向の違い



2019改訂『高次脳機能支援コーディネーター多職種連携・事例検討会・制度活用の手引き』
P7 ICFにおける医療職と福祉職における連携の補完

就労支援段階で就労支援機関が医療機関から把握したい情報の例

- ①医学的情報（**障害原因、損傷部位、神経心理学的検査の結果と解説**、生活状況）
- ②服薬内容、服薬の自己管理能力
- ③作業能力（得意・不得意、**作業遂行時の工夫点**、疲労のサイン）
- ④家族関係
- ⑥本人の就労に対する考えや思い
- ⑦本人の強み
- ⑧**本人、家族の障害認識、抵抗感**
- ⑨**医療リハの内容、経過**
- ⑩**病院担当（だった）者、問合窓口**

☑医療情報提供書の活用（ただし、文書料の患者負担に考慮）

☑検査結果の書面（所見）は本人、家族に提供されているほど参考になる

専門性の違いを踏まえた連携



医療機関

- 診断、治療計画、薬物療法などの治療
- 病気や障害の経過を踏まえた知見（認知特性、力を発揮しやすい場面、調子を崩しやすい場面、崩した時のサインや望ましい対処法）
- 適切な疾病管理の指導



就労支援機関

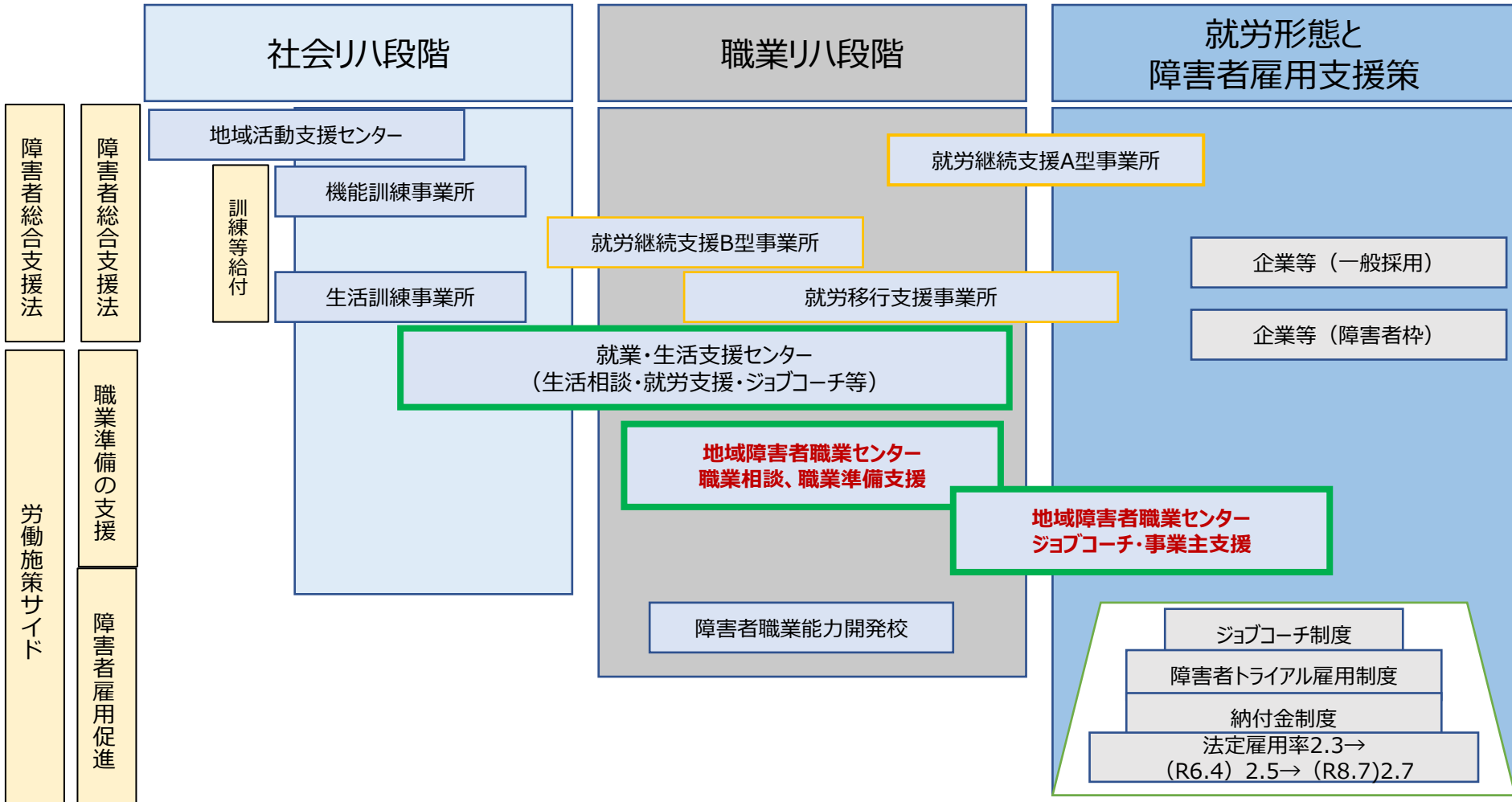
- 就労に関する要因を把握・検討（作業内容、労働条件、職場環境、雇用管理や就労支援の体制など）
- 職場開拓、職場のラインケアの調整
- ジョブコーチなどによる職場内支援

医療
心理検査・処方

福祉・就労支援機関
職業準備の支援

定着支援

復職や新規就労のための就労支援関連機関



まとめ

高次脳機能障害者の就労支援事例はまだまだ少ないが、バリエーションは多い。個別の事例の積み上げが課題

障害認識の乏しさ、易疲労性、作業能力と職場要求のミスマッチのために短期離職につながりやすい

医療段階からの“障害の気づきへの支援”や、就労支援時の就労支援機関との医療情報の共有が大切

継続的に、各機関が各々の役割を一步踏み込んで支援することが理想